




1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	久米南町立弓削小学校	実践者名	長子谷 幸一
教科	体育科	学年	第3・4学年
活用内容	撮影	実践日	令和3年10月13日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 1
単元・内容等	<p>「走跳の運動 幅跳び」 自分にあったコースを選択し、同じリズムで助走した後、自分で決めた踏切り足で踏み切ってリズムよく跳ぶ技能を身に着ける。</p>		
活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む)			
<p>(1) 基礎感覚を高める運動と立ち幅跳びの練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な着地や空中姿勢を身につけさせるために、立ち幅跳びの練習を繰り返し行う (リズム感覚…スキップ、平衡感覚…ケンケン跳び、跳感覚…両足跳び) <p>(2) 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ト・ト・トーン」のリズムで調子よく跳んでみよう。</p> </div> <p>(3) 踏切り足・走り出し足を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 踏切り足が分からない児童に対しては、障害物を超える時に踏み切っている足、両足をそろえ、前に倒れた時に残った足が踏切り足、走り出し足となることを伝える。 <p>(4) 踏切り練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 端末のカメラ機能で、互いの跳ぶ様子を撮影し、技能ポイントと照らし合わせてアドバイスをし合うことで、自身の課題を明確にし、試技を改善できるようにする。 「ト・ト・トーン」のリズムを意識できるよう、お互いにかげ声を出させ、それに合わせて跳ぶようにする。 必要に応じて、踏切り位置にロイター板を置いたり、砂場に目標になる線を引いたりすることで、より遠くへ跳ぶ感覚を身につけることができるようにする。 <p>(5) 本時のまとめと振り返りをする。</p>		  	
<p>端末のカメラ機能を活用し、自身の踏切り位置や空中姿勢、着地姿勢を、動画や静止画で繰り返し確認したことで、自身の課題が明確になり、試技の改善につなげることができた。 (指導主事より)</p>			
実践者の手ごたえ		児童生徒・保護者等の主な反応や声	
お互いの試技の様子について、掲示した技能ポイントと動画を照らし合わせながら、お互いにアドバイスすることで、教え込みではなく、児童自身が自分の動きのどこを改善すべきかを、見つけることができた。		自分の試技の様子を客観的に見る事ができ、「次はここを直そう。」という声が多く聞かれた。また、技能ポイントと照らし合わせながら互いにアドバイスし合うことで、「自分もがんばろう」という意欲につながった。	

※本授業は、久米南町立弓削小学校令和3年度研究「自分の考えを持ち 生き生きと活動する児童の育成をめざして～「非認知能力」や児童の気づきを大切に授業を通して～」の一環として実施された。

本研究に関する詳細は、下記 URL を参照

(弓削小学校 HP https://www.town.kumenan.lg.jp/school_yuge/index.html)